

(二) 流域全面積に対する崩面積の比率

林 種	10年生迄	20年生迄	30年生迄	40年生迄	それ以上
針葉樹林	2.19	6.76	0.13	0.04	—
広葉樹林	1.13	2.62	0.26	—	—
針広を越し	2.25	1.34	0.48	0.03	—

(三) 今20年生迄の森林を幼令林とし、それ以上40年生迄を中令林、それ以上を老令林として崩壊地の発生状況を測れば幼令林地の崩壊が正岡町で95%、中令林地5%、老令林地は皆無であります。

面積に於ては幼令林地が8%、中令林地2%、老令林地は皆無である。

以上により森林の有する土砂停止能は老令林が最も高く中令林は之に次ぎ、幼令林に於て最も微弱であることを知るのであります。

三. 傾斜と崩壊状況

林 相	20 度 迄		30 度 迄		40 度 迄		45 度 迄		それ以上	
	傾度ヶ所	全面積(㎡)	ヶ所	面積	ヶ所	面積	ヶ所	面積	ヶ所	面積
森 林	11	178	58	569	197	2907	99	964	31	317
株立木地	13	103	126	6.11	253	1409	80	5.32	46	2.10
計	24	281	184	11.80	450	4316	179	14.96	77	5.27

即ち崩壊の最も多いのは傾斜31~40度で、41~45度、21~30度及び20度未満の傾度であります。

(左 岐阜県系西 松 清 君 山 下 田 丁 の 地 区 一 帯 に 関 して)

岐阜県林務課技師 牧 頼 勝 尚

1. 地 帯 発生地は松清兼松淵家田角2ヶ所、傾斜330mの東斜面
2. 地帯り前の地況 第3紀層状地帯で赤色砂岩、白色砂岩、石灰の互層で傾斜15度、表土深く、武岩の石を含む砂質土で地下には向山状の流道が走る。炬代川沿岸地帯は標高2~30m位、中100m位の帯状水田あり。真上方は10~15度位の傾斜で、平石場、土山名部等あり附近一帯は古木村橋の栽培地、標高150m附近に炭坑とホタ山あり、傾斜20度以上、崩壊森林地帯をなす。山腹は谷川附近に約1町歩の平坦地あり、表土深く牛蒡等がでる。真上方は25~30度位の急傾斜地で崩壊杉松が植林してある。
3. 地帯り前の経緯 昭和25年11月頃山腹の谷川平坦地に落石発生。12月7日落石は高さ4m長さ400mとなりホタ山一帯崩壊。本年2月12日、平石場と方に落石及崩壊発生、急な落石を避けた郡民は16日に一帯避難しようとした。17日朝6時半大音響と共に滑

動し瞬時にして巖山手民家から次々に22戸が崩土に押潰され地中に吞まれた。一旦吞まれた家と樹木は100m余下方で再び浮上し又沈下し、崩土は相当もまれて齧砕したと思われる。此の地じりは菱形的陥没地じりと言われ山頂附近の平坦地は数谷m陥没し頂には70~80度の断層面ができた。押流された崩土は長さ500mに亘り佐代川を堰止め、其上流には自然ダムができた。16日夜11時頃再び大崩壊が起り山頂の陥没高差100m以上になり崩土先端は数谷m進み小学校及公民館の台地迄迫った。17日午後から土砂の移動は弱まり18日午後は一応落付いた様である。

4 地じり地の現状 地じり崩壊土砂は東西1K南北0.5Kに及び、佐代川浜の尖部部は略。平坦。中層は10~15度の傾斜である。尖部部には地層の深い所のものが流れ、中層より上方に行くに従い地層の浅い所の崩壊したものが散乱する。8合目附近にあった平坦地の畑は陥没と共に山頂に向い30度の傾斜となり、麦、牛蒡はやりまゝ生育している。山頂附近には山頂の崩壊面と此畑の面とに對し深谷ができた。崩壊面から湧出する水が滲っている。

#### 5. 被害の状況

罹災家屋	28戸	林	野	14町
解体家屋	19戸	死	畜	3名
畑	畑			36町

6. 地じり原因についての考察 築坑が徐々に地じり崩壊の原因となると言われるが山代町の場合は他に大原因も与えられるので其関係は判然としなない。尤も当地方は地じりし所は第3紀層に居し、栗山代、二重、粟川の各村にも地じり地があり、長崎縣刺に当る石倉山にも明治40年頃地じりしたと言われる所があり、各所に断層線も廻られ地層は相当もれている。又8合目附近にあった平坦地は昔地じりによつて作られたものと認められる。若しそうだとするは今回の地じりは地じりの交互性という考えからして一度安定した所が其後の侵蝕の進行によつて力の平衡が故れ再び地じりが発生したものと考えられる。尚昨年11月の初年にも多雨や2月14日、15日の降雨も相当影響し殊に15日の雲山地度は一層力の平衡が破られ更に運動を起せうとする滑動体に絶好の刺激を与えたものと考える。